

3 広報・情報計画

○今後の取り組み

ポイント:地域資源の情報発信の現状を知る

地域情報の現状把握

エリア内でどのような情報を誰が発信しているのかを把握する

○南阿波～室戸エリア内の情報発信

・南阿波まるごとナビ

(内容) 観光情報や、ルートの案内、ホテルや病院、ガソリンスタンド、お土産物やなど、さまざまな情報を見ることができる。QRコードを使った情報閲覧もできる。

<http://minamiawa.jp/>

・室戸食遊館808 (ホームページ)

(内容) 室戸の民宿・旅館・ホテル・宿坊の12軒で結成したグループが、ホテルなどの情報や、遊び場などの情報発信をしている。

<http://www.muroto808.com/>

○讃岐平野エリア内の情報

・瀬戸内アートネットワーク

(内容) 高松市美術館や県立ミュージアムを含む、6つの美術館や美術施設のネットワーク。モデルルート案内や、美術館の詳細などを発信している。スタンプラリーも実施している。

・むれ源平まちづくり協議会 (ホームページ)

(内容) 町の観光情報や、イベント情報、口コミ情報、交通アクセスなどの情報を発信している。その他、特派員のブログや地域の魅力を語るビデオ映像の配信など、情報が満載である。

○石鎚～四国カルスト～仁淀川流域エリア内の情報

・面河山岳博物館「面河山岳博物館ニュース」

(内容) 年に5-6回発行、企画展などや博物館周辺の動植物情報が提供されており、インターネットでも閲覧できる。

<http://www.town.kumakogen.ehime.jp/culture/museum/>

・横倉山自然の森博物館「不思議の森から 横倉山自然の森ニュース」

(内容) イベント情報やスタッフの声などの情報を提供している。

<http://www3.ocn.ne.jp/~kanko12/hakubutukan.htm>

○足摺～南宇和エリア内の情報

・四国西南地域観光連絡協議会

(内容) 宇和島市、愛南町、宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、黒潮町の7市町によって構成される連絡協議会。観光情報やルートマップ、宿泊情報などを発信している。

<http://www.pref.ehime.jp/seinan/>

・大月町・三原村牧野富太郎の道を歩くナビ推進委員会

(内容) 各町村の住民、企業大学生、研究者たちからなるグループで、地域に点在する植物を主体とした観光資源をRFIDタグ・QRコードで管理し、携帯電話で入手後はマップ化する事業を実施。

<http://www.nanreku.jp/>

知る

ポイント:効果的な情報発信について検討する

情報発信の検討

効果的な情報発信について検討する

○検討項目

- ・運営体制の構築
- ・情報内容・提供手段・媒体
- ・整備の予算確保
- ・エリア内の情報発信の一元化

○費用

- ・ホームページ製作費 約80万円～
- ・パンフレット印刷費 約20万円～
- ・DVD作成 約100万円～
- ・ポスター印刷 約10万円～
- ・雑誌への掲載 約3万円～ など

○活用できる支援制度

- (事業名) e-地域資源活用助成事業
 (概要) 複数市町村等が連携し、同一テーマで、広域の情報を提供することで、地域活性化を推進する事業。
 (対象経費) 助成対象事業において、情報提供および連携実現のために必須となるコンテンツ制作費、情報提供設備費など
 (補助率) 2/3以内 上限800万円
 (連絡先) 財団法人地域総合整備財団
<http://www.furusato-zaidan.or.jp/>

○参考事例① エリア内の情報発信の一元化

- ・山陰海岸ジオパークのホームページ
 (内容) 山陰海岸ジオパークのホームページは、3府県の6市町が共同で運営するウェブサイトで「日本列島誕生のダイナミクスを体感するジオパークの創造」を共通の基本理念として、山陰海岸の地形、地質、そして、自然と文化、食などの魅力を一体的に売り出している。
<http://sanin-geo.jp/>

○参考事例② 観光地でのユニークな情報提供

- ・鳥取県・境港「水木しげるロード」にある妖怪饅頭の妖怪新聞
 (内容) 特産品「妖怪饅頭」は、お土産として非常に人気で、旅行を終えてからも、「また食べたい」というリピーターが多い。人気の秘密は、包み紙で、新聞をイメージしたデザインには、地域ならではの情報が盛りだくさん書かれている。その情報は、購入する以外は読むことができず、観光客の発見や感動を誘導し、リピーター獲得に成功している。
<http://youkai.ocnk.net/>



(出典：妖怪饅頭ホームページより)

ポイント:多様な手段で戦略的に情報を届ける

情報発信

ジオパークに関連する地域の情報を戦略的に発信する

○効果的な情報発信（案）

・観光の行動・場面に適した3段階の情報提供

①観光客が計画を立てる段階での情報提供

- 必要な情報：その土地の魅力、宿泊施設、旬の情報、多様な体験メニュー、アクセス方法、かかる時間と費用、口コミ情報など。
- 提供手段：パンフレット、市販のガイドブック・旅行雑誌、ホームページ、インターネットなど。

②移動中の情報提供

- 必要な情報：乗り継ぎや時刻表、案内表示、地図、飲食店、休憩場所など。
- 提供手段：空港や駅などの交通結節点やサービスエリア、道の駅などでのパンフレットや案内地図の配布。カーナビゲーション、携帯電話版ウェブサイト、ラジオなど。

③観光地での情報提供

- 必要な情報：迷わずに安心して観光を楽しめる現地地図、経路案内、休憩場所など。観光客の発見や感動を誘導する情報提供など。
- 提供手段：案内看板やサインを地域の要所に設置、観光案内所における口頭での案内、パンフレット、案内地図、携帯電話版ウェブサイトなど。

○参考事例・情報

①観光客が計画を立てる段階での情報提供

・鎌倉日和

（内容）鎌倉・江の島の自然、文化、人々の暮らしや風情を動画を用い、インターネット限定で発信している。アロハス株式会社と江ノ島電鉄株式会社、カシオ計算機株式会社が協力して作成。

<http://www.enoden.co.jp/kamabi/index.html>

・ふるさと情報プラザ（（財）地域活性化センター）

（内容）東京都千代田区有楽町にあり、観光、物産、イベントなど様々な分野のパンフレットを都道府県市区町村別に無料で展示。地域の産品や観光のプロモーションを実施する地方自治体に、無料でスペース提供などの支援。

<http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/plaza/index.htm>

②移動中の情報提供手法

・南阿波まるごとナビ（農林水産省：農山漁村地域力発掘支援モデル事業）

（内容）マイカー利用の県外客らが迷いやすい交差点などに専用のFM電波発信器を設置し、FM電波を利用した地元の情報提供している。カーラジオの周波数を合わせ、発信器に近づくと、音声で道案内やイベント情報など周辺の観光情報が流れる。

・交通結節点の活用

（内容）レンタカー会社や道の駅などで地域の案内地図を配布する。

③観光地での情報提供手法

・大阪まちあるき音声観光ウォーキング

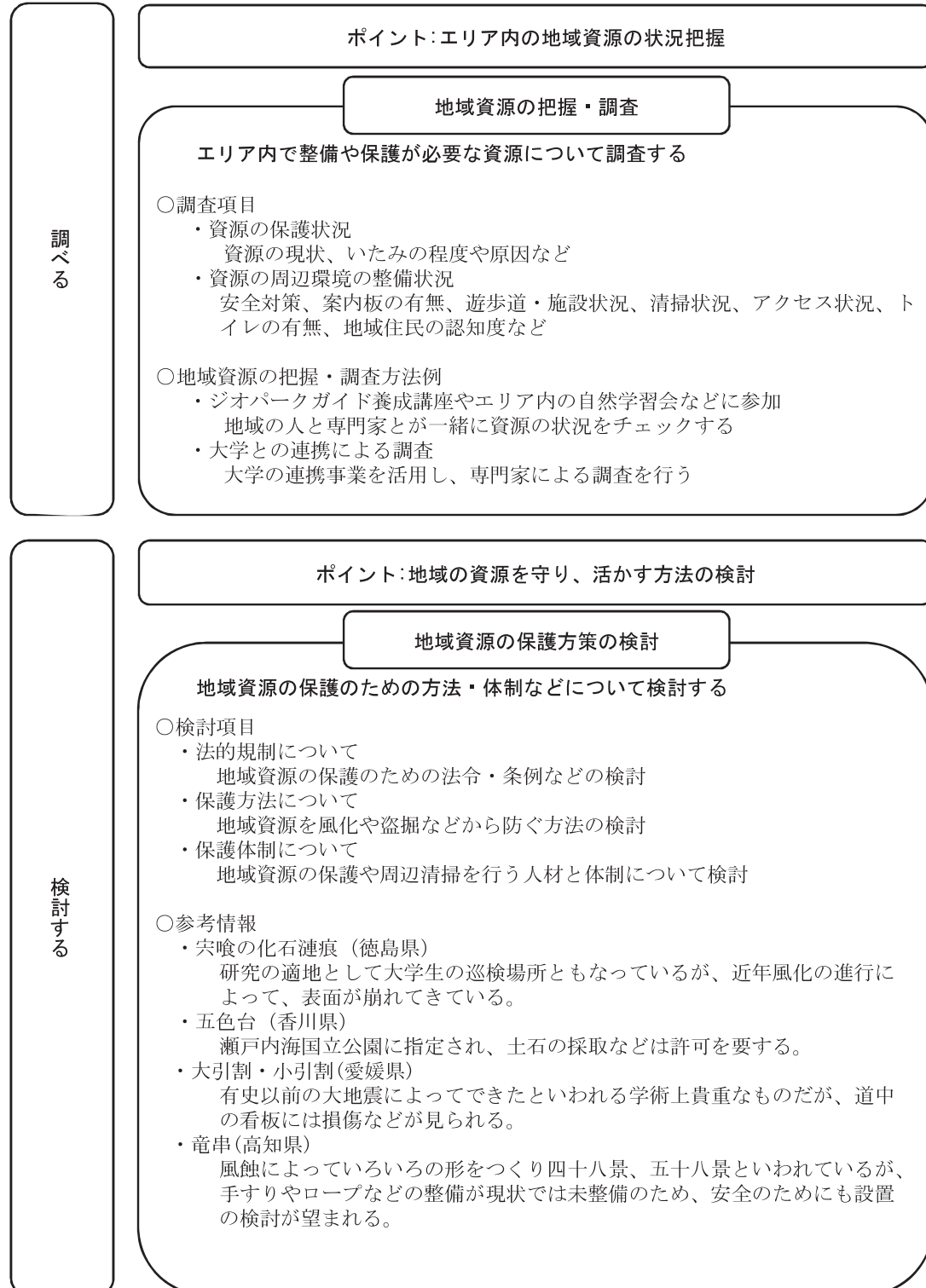
（内容）音声による観光ガイドをインターネット閲覧ソフトからダウンロードしてiPodなどの携帯オーディオプレーヤーに取り込む事で、大阪の観光、歴史スポットをより深く知り楽しむことができる。

・現地で情報提供

（内容）飲食店のランチョンマットに案内地図をプリントする。

4 管理計画

○今後の取り組み



ハード整備の検討

検討する

エリア内で必要なハード整備について検討する

○検討項目

- ・必要な設備の洗い出し
- ・既存設備の修繕・利活用
- ・遊歩道、ビジターセンター、看板、トイレ、休憩所などの整備

○整備方法例

- ・統一されたデザインの案内看板
(内容) 先進事例調査を行ったカナウインカジオパークでは、申請前からデザインや色を統一した説明看板を域内に整備している。



○活用できる支援制度

- ・まちづくり交付金(全国)
地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かしたまちづくりを行うことにより都市の再生を推進し、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るための制度。
- ・徳島県文化振興事業費補助金(徳島県)
文化の振興及び文化財保護に資する文化活動、並びに文化財保存事業に要する経費の一部を助成。
- ・指定文化財保存修理事業費補助金(香川県)
国指定文化財、県指定文化財の適正な保存管理と活用を図るための保存修理事業。
- ・文化財保存顕彰事業費補助金(愛媛県)
県指定文化財の所有者などが行う保存、伝承、修理及び周知活用のための事業に要する経費の一部を助成。
- ・高知県観光案内板等整備事業費補助金(高知県)
おもてなしの心で観光客を迎え入れる取り組みを進めるため、市町村などが所有する誘導標識や観光案内板の整備を支援。

○施設案

- ・コミュニティカフェ
(内容) 地域の人と観光客がカフェという空間を利用して、まちづくりを考えたり、情報を集めたりする場所づくりを検討する。公民館などの既存施設の利用も可能。
- ・ポケットパーク
(内容) 地域の生活環境を良くすることを重視し、気軽に休める憩いの場として、道路わきや街区内の空き地などわずかの土地を利用した小さな公園またはトイレなどを完備する休憩所を整備する。

○参考事例

- ・東北大学 カフェ図書館 Plat
(内容) 東北大学の学生グループ「仙台都市デザイン研究会」が公共図書館がない福島県桑折町の蚕糸工場跡地に、カフェと図書館が融合した施設「カフェ図書plat」を運営している。
<http://cafe-tosho.net/>
- ・カナウインカジオパーク 地域インフォメーションセンター
(内容) オーストラリアのカナウインカでは、公民館のような場所で、住民がボランティアスタッフをしながらその地域の情報を提供しているインフォメーションセンターがあった。

ポイント:地域の資源を持続的に保護する

地域資源の保護

持続可能な維持管理体制を確立し、地域資源を保護する

○参考事例

・法的規制

－「四万十川条例」と「文化財保護法」（高知県 四万十川流域）

平成13年に環境をテーマとした魅力ある地域づくり、誇りある地域づくりを進めるよう市町村にまたがった条例を作っており、環境配慮指針等を定めている。また、この地域は全国で初めて複数自治体にまたがる流域全体で「重要文化的景観（※1）」として制定され、文化財保護法のもと、流域全体における保存・活用方法を模索している。

※1 重要文化的景観

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの。

－日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例（鳥取県）

県民共有の財産であり、世界に誇る地域の宝である鳥取砂丘を、砂丘利用者とともに守り育てていくため、県や砂丘利用者の責務、県の保護施策、利用者への規制などを含めた条例を定めた。

・保護方法

－カナウインカの地域資源（鍾乳洞地形）を利用した公園

鍾乳洞特有のクレターのような地形を利用して、公園を整備している。公園内は花であふれており、小動物も住んでいるため、観光客や地域の人の憩いの場として利用されている。



・保護体制

－アドプトプログラム（※2）

各県において、地元の企業や住民などさまざまな団体が活躍している。

※2 アドプトプログラム

地元の道路や川の土手のような公共物を自分たちの養子とみなし、定期的に空き缶拾いなどの清掃活動を行う、アメリカ生まれのボランティア制度。

－鳥取砂丘レンジャー（非常勤職員）

鳥取県では鳥取砂丘の地質、地形、植生、歴史などに関する解説指導や節度ある利用のための指導又は助言ができる人材を鳥取砂丘レンジャーとして平成21年3月から配置する予定（募集人数は2人）。

・保護費用

－新温泉町 新町「地域資源」保護育成基金創設プロジェクト

山陰ジオパークに含まれる新温泉町では、山陰海岸国立公園、ルーツ温泉（荒湯の高温自噴の天然性、歴史性）、バイカモ、杜氏、多くの先人等を新町の地域資源として指定し、その保護や育成のために関連するプロジェクトを支援する新たな基金を創設して『「地域資源」発信町』の実現をめざしている。

参考事例・情報

○活用できる支援制度

- (事業名) まちづくり交付金
 (対象経費) 施設・面整備、調査、提案事業等
 (対象団体) 市町村（都市再生整備計画の作成が必要）
 (補助率) 原則4.5/10
 (連絡先) 財団法人都市みらい推進機構
<http://www.toshimirai.jp/index.html>
- (事業名) 徳島県文化振興事業費補助金
 (対象経費) 文化の振興及び文化財保護に資する文化活動、並びに文化財保存事業に要する経費
 (対象団体) 市町村など
 (補助率) 1/2以内
 (連絡先) 徳島県教育委員会文化財課
 Tel 088-621-3162 Fax 088-621-2886
- (事業名) 指定文化財保存修理事業費補助金
 (対象経費) 指定文化財に関する保存修理事業、県指定文化財に関する保存管理計画策定事業、指定文化財に関する管理事業
 (対象団体) 指定文化財の所有者又は管理団体
 (補助率) 1/2以内
 (連絡先) 香川県教育委員会生涯学習・文化財課
<http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/bunka/bunka/index.php>
- (事業名) 文化財保存顕彰事業費補助金
 (対象経費) 県指定文化財の所有者などが行う保存、伝承、修理及び周知活用のための事業に要する経費
 (対象団体) 県指定文化財の所有者等
 (補助率) 補助対象経費に応じて1/3～1/15以内
 (連絡先) 愛媛県文化財保護課文化財保護係
 Tel 089-912-2976 Fax 089-934-3229
- (事業名) 高知県観光案内版等整備事業費補助金
 (対象経費) 市町村などが所有する誘導標識や観光案内板の整備
 (対象団体) 市町村など
 (補助率) 1/2
 (連絡先) 高知県観光部おもてなし課
<http://www.pref.kochi.jp/~omotenashi/>

○各県のアドプトプログラム

「アドプト大国 徳島」

701団体、35,579人が参加しており、県民の間に定着してきている。

http://our.pref.tokushima.jp/adopt/ad_seido.php

「香川さわやかロード」

高松市を中心とした県道で104団体が活動している（平成19年3月1日現在）

<http://www.pref.kagawa.jp/douro/home/sawayaka/sawayaka.html>

「愛リバー・サポーターネットワーク」

159団体が70の区域において、河川敷の清掃等に取り組んでいる。

<http://www.pref.ehime.jp/070doboku/040kasen/00002645030326/>

「ふれあいの道づくり支援事業」

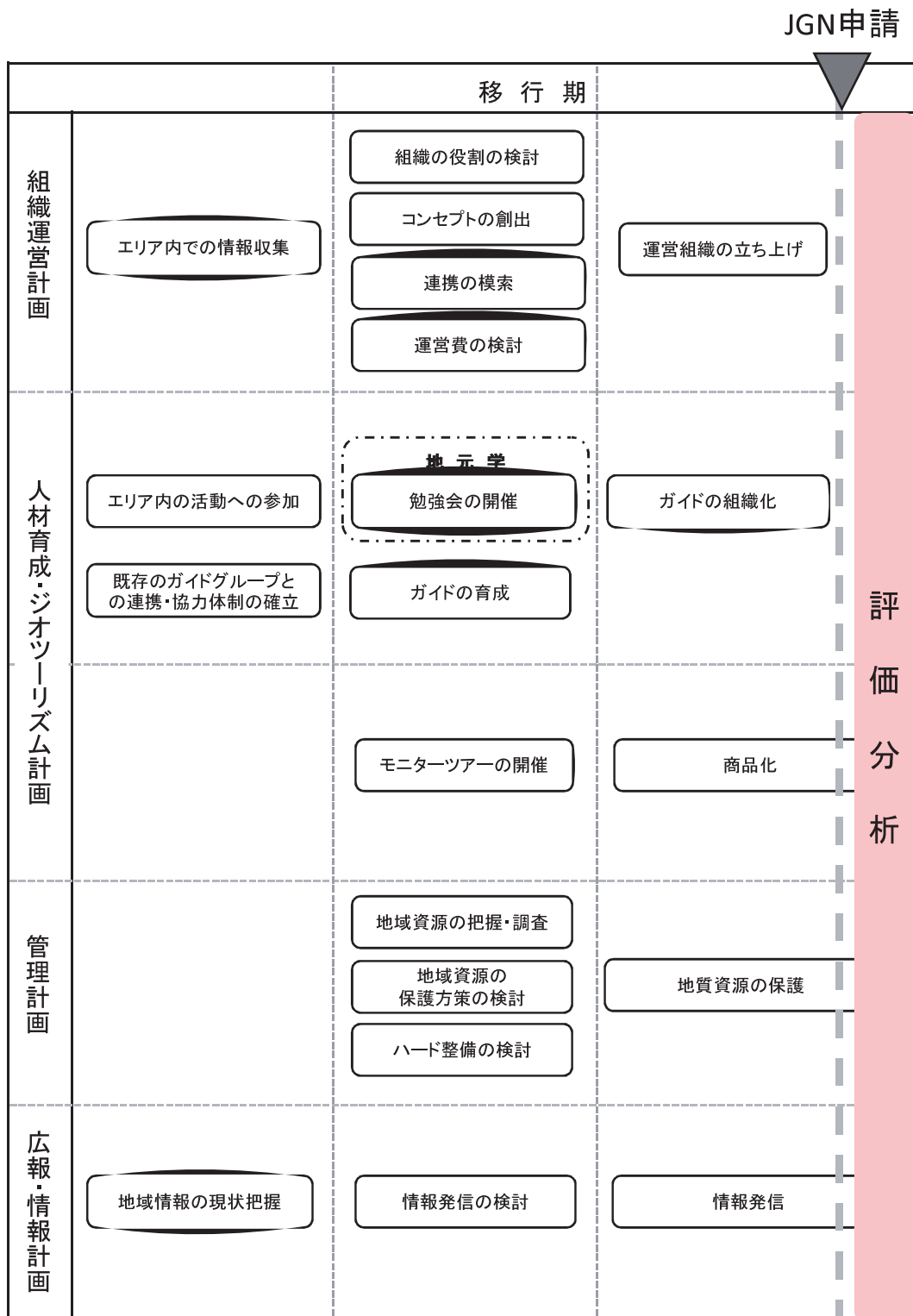
493団体、9,811人が清掃や花壇の世話等の活動をしている（平成20年4月現在）。

<http://www.pref.kochi.jp/~douro/kankyo/fureai/youryou.htm>

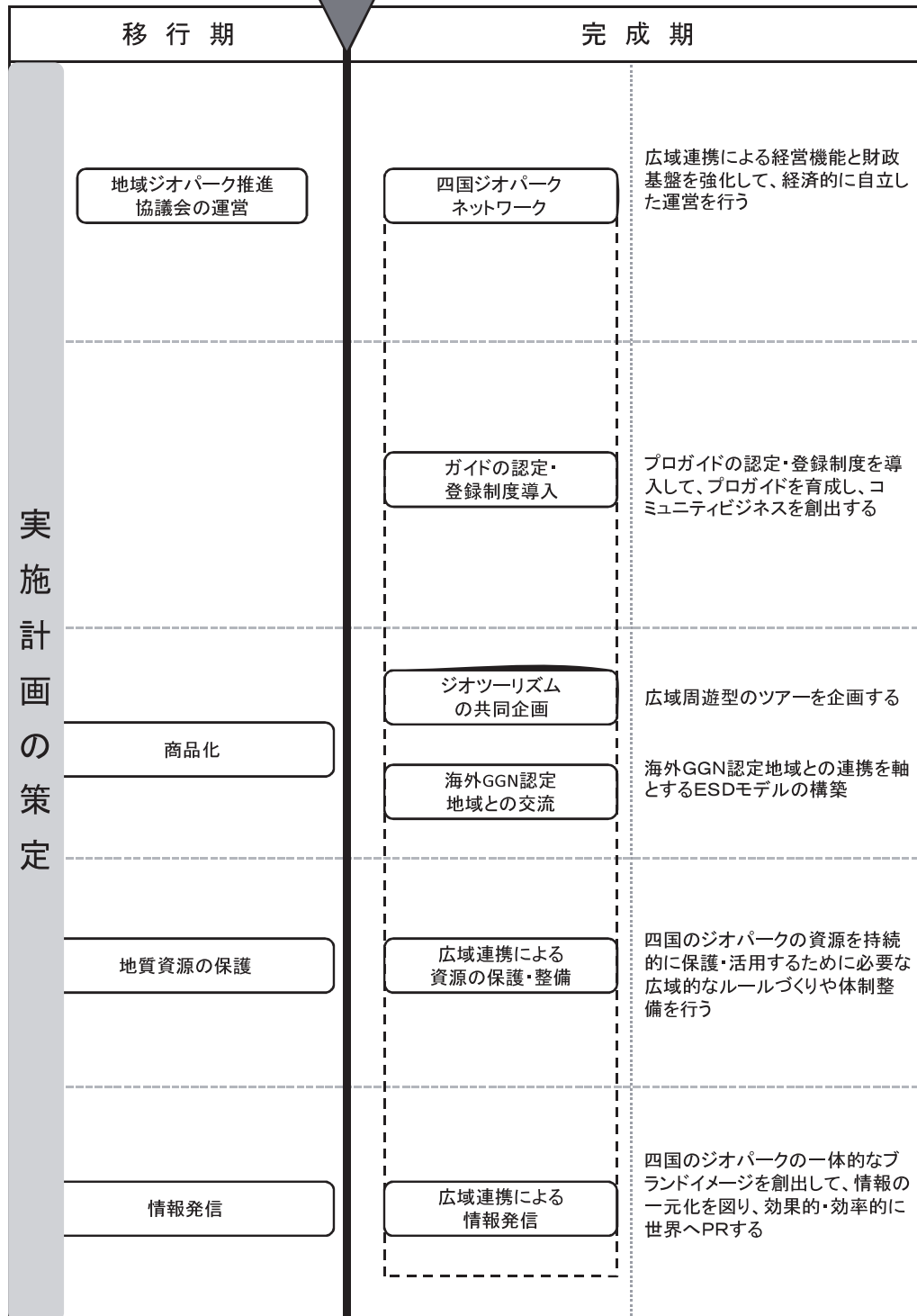
「ヤ・シィアドプトプログラム」

県立公園であるヤ・シィパークでは10の団体がパーク内や海岸の清掃や花壇の世話といった活動をしている（平成20年4月現在）。

5 ロードマップ



GGN申請



第5章 おわりに

ジオパークは2004年から始まった、まだまだ新しい取り組みで、現時点で日本にはGGNへ加盟した地域はありません。

また、これまで述べてきた中に、ジオツーリズムやジオサイトなどといった聞きなれない言葉が並ぶと、何か難しいことをしなければいけないように感じるかもしれませんが、決してそんなことはありません。

本調査でモデル地域として現状調査を行ったところは、冒頭に述べた21世紀のフロンティアとしての素材がたくさんあり、既に観光地として多くの観光客が訪れています。

これまでの観光素材である自然・歴史・文化を「ジオ」といった切り口で見直し、活動の方向付けをすることで、魅力が向上する可能性を秘めています。

元ユネスコ地球科学部長のエダー氏が言われた「ジオパークの傘の下」の意味は、こういったことではないでしょうか。

ジオパークの認定を受け、地域経済の活性化に結びつくことができれば言うことはありますが、ジオパークに取り組む過程そのものにも色々な効果があります。

例えば、GGNが定めた自己評価を行うと、地域の特徴や課題が明確になり、地域活動の指標になります。

また、住民が地域の資源やその価値を知ることによって、自分たちの地域を再認識することになり、住民の結束力や郷土愛が高まります。

このように、この報告書は私たちがめざす究極の目標である“持続可能な地域の活性化”に効果的なジオパークへの取り組みが、地域レベルから始められる内容としており、たくさんの地域でジオパークへの取り組みが推進されることを期待しています。